

12日 水曜

ペテロⅡ

1:12 ですから、あなたがたがこれらのことをすでに知り、与えられた真理に堅く立っているとはいえ、私はあなたがたに、それをいつも思い起こさせるつもりです。

1:13 それを思い起こさせて、あなたがたを奮い立たせることを、私は地上の幕屋に在るがぎり、なすべきだと思っています。

1:14 私たちの主イエス・キリストが示してくださったように、私はこの幕屋を間もなく脱ぎ捨てることを知っています。

1:15 ですから、ぜひとも、私が去った後いつでも、あなたがたがこれらのことを思い起こせるようにしておきたいのです。

1:16 私たちはあなたがたに、私たちの主イエス・キリストの力と来臨を知らせましたが、それは、巧みな作り話によったものではありません。私たちは、キリストの威光の目撃者として伝えたのです。

1:17 この方が父なる神から誉れと栄光を受けられたとき、厳かな栄光の中から、このような御声がありました。「これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ。」

1:18 私たちは聖なる山で主とともにいたので、天からかかったこの御声を自分で聞きました。

1:19 また私たちは、さらに確かな預言のみことばを持っています。夜が明けて、明けの明星があなたがたの心に昇るまでは、暗い所を照らすともしびとして、それに目を留めるとよいのです。

1:20 ただし、聖書のどんな預言も勝手に解釈するものではないことを、まず心得ておきなさい。

1:21 預言は、決して人間の意志によってもた



らされたものではなく、聖霊に動かされた人たちが神から受けて語ったものです。

ペテロは地上の生涯をもう直ぐに終えるという覚悟に生きていました。その最後に自覚した大切な使命は、クリスチャン達を「奮い立たせる」ことです。伝道も大切であって、クリスチャンであれば必ずすべきことであり、祝福と喜びですが、それだけではありません。クリスチャンを励ますことも忘れてはならないのです。

セルなどで互いに信仰を励まし合うことは、大きな働きであり、それは健全な信仰を回復させて、さらには伝道へとつながってゆくものです。

ペテロは聖書の記者である自分たちの証言を、「作り話によったのでは」なく、真実であると明言しています。聖書は全て真実であり、そこに書かれていることは、神のことばゆえに力あるものです。

ただしこの聖書を読むにあたっては大切なことがあります。それは「勝手に解釈するものでない」ということです。それをしてしまうと真実が歪められてしまうこととなります。

ですから正しく解き明かす人が必要で、それはキリスト教、教会、そして解釈の歴史に主が働いておられるので、それらを踏まえた解釈と解き明かしが必要なのです。

礼拝に行かずとも1人で祈っていますという人がいますが、説教者の語るメッセージを聞く必要がありますし、ディボーションガイドも必要なのです。

ただし、みことばを自分に適用することは私的なことです。ひとそれぞれ違うのは当然ありうることです。

説教を実践し分かち合って、またディボーションも同じように、分かち合いましょ。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

